

EMULSION

乳化技術の進歩を表現したベンチ



日本の化粧品は「J-Beauty」として知られ、
海外でも高く評価されています。

化粧品を製造する中で、水と油を混ぜ合わせて
安定した状態に保つ「乳化」は非常に重要な工程です。

水と油を混ぜ合わせることで
「しっとりしているのにべたつかないクリーム」のような、
水だけ、油だけでは実現できない感触を表現することができます。

使用する乳化技術によって水と油の混ざり方は異なり、
同じ材料を用いても感触が変わります。

つまり、手触りは技術によって大きく影響されるということです。
化粧品の研究者たちはこの 100 年近く、
常に乳化技術と向き合い続けてきました。

現在では、水と油の混ざり具合を精密に制御することが可能になり、
よりなめらかで心地よい手触りが生み出されています。

このベンチは、乳化技術の違いによるクリームの手触りの違いを表現しています。
最先端の乳化技術（※）を用いたクリームをイメージした心地よい表面と、
過去の乳化技術を用いたクリームをイメージした表面を、
触って比較してみてください。

身近に使うものの手触りの裏には、たゆまぬ努力による技術進化が存在しています。

※ M ポリマーという独自素材の開発により実現した新たな乳化技術。
塗布時に特殊な化粧膜を作ることで、感触に優れる。

【参考 URL】

https://www.pola-rm.co.jp/pdf/release_20171121.pdf